

はじめに

大城 俊夫

Toshio Ohshiro

慶光会グループ会長

今年6月10日をもちまして大城クリニックと日本医用レーザー研究所は開設30周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力の賜物と感謝している次第です。

振り返ってみますと、私の研究は1966年に慶應義塾大学医学部形成外科に入局し、初代伊藤盈爾教授の下で植皮片の二次性色素沈着に興味を抱いたことから始まりました。その後、医科歯科大学皮膚科の清寺眞教授の下でメラニンの研究をさせていただきました。慶應義塾大学形成外科に帰局後、1972年に皮膚の異常色を治療するカラークリニック（特殊外来）を開設しました。従来の治療法に飽きたらずに1974年にシンシナティ大学のレオン・ゴールドマン教授にレーザー医学を学ばせていただきました。当時、医療用のレーザー機器はなかったので、工業用のルビーレーザーシステムをメイマンのコーラッド社より購入し、改良を加え、大城式ルビーレーザー治療器を作りました。ニワトリと大城の前腕部で安全を確認した後、1975年6月に大城クリニックと日本医用レーザー研究所を開設し、患者様のレーザー治療を開始しました。その後、治療の成果を静岡新聞と朝日新聞で報道され、全国に知れ渡ることになりました。

われわれのレーザー治療は皮膚表面の異常色、特にアザを対象としておりましたので、患者様と一緒に治療後の経過をつぶさに観察し、治療方針などを相談することができました。その結果、いろいろなレーザーの反応を患者様から教えていただき、痛みの治療、アトピー性皮膚炎の治療、スポーツ医学への応用、アレルギー性鼻炎の治療、不妊症の治療、美容外科への応用などと、治療や応用の範囲が広がってきました。胸に赤いアザを持った患者様をアルゴンレーザーで治療している時、併せ持っていた帯状疱疹後の肋間神経痛が治ったことを教えられ、痛みの治療が始まりました。アザ

の治療中に、アトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎が治ったことも患者様が教えてくれました。閉経後のご婦人の腰痛症を治療しておりましたところ、生理が再開したことから、不妊症のレーザー治療が始まりました。このようにして患者様に教えられ、その反応や現象を深く究明することで新しい治療が生まれてまいりました。

レーザーは、原子力、トランジスタと併せて 20 世紀の三大発明のひとつといわれております。トランジスタはコンピュータ、IT 産業へと目を見張るほどの発展を遂げておりますし、原子力も平和利用として原子力発電が普及し、われわれの生活の中に深く入り込んでおりますが、レーザーは数多くの発明や発見がなされているにも関わらずあまり知られておりません。レーザー医学に関する学会が世界中に 90 以上もあり、毎年素晴らしい成果がたくさん生まれておりますが、この成果が世の中に知られぬまま、皆様のお役に立っていない部分が多々ございます。今年 2 月に、東京大学の渥美和彦名誉教授が会長となられ、特定非営利活動法人世界レーザー医学連合会（NPO World Federation of Societies for Laser Medicine and Surgery: NPO WFSLMS）が誕生いたしました。私、大城はこの法人の事務局長を命ぜられ、微力ではありますが今後も普及活動に努めたいと考えております。NPO WFSLMS では数多くあるレーザー医学会での成果を、人類の健康と福祉に安全にしかも出来るだけ速くお役に立てたいと考え、様々な支援事業を始めております。

支援事業には 1.世界学術機構支援事業、2.レーザー節血運動普及事業、3.移動型レーザー治療支援事業、4.レーザー医学教育・訓練支援事業、5.未来型レーザー治療支援事業、6.資格認定発行事業、7.医療レーザー機器開発支援事業の 7 つがあります。1 の支援事業では、レーザー医学に関する学術機構に対して支援をする事業です。2 のレーザー節血運動普及を通じて、3~7 の事業を展開させ、レーザー医学を普及させることでレーザーの素晴らしい成果を世界の人々に分配すべく、日々努力しております。このような支援活動は今年やっと始まったばかりであります。われわれは今年をメディカルレーザー元年としてレーザー医学の普及活動に努める所存であります。

過去 30 年の間にレーザー治療を通して大城クリニックでは、少しでも患者様のお

役に立てるよう新しい治療器や治療法などを積極的に取り入れ、“常に最良の治療”を心がけ患者様と共に臨床・研究に励んでまいりました。また、研究所では学会活動やレーザー機器の開発を通してレーザー医学の発展に努めてきたつもりであります。今年を節目とし、新体制のもと患者様のためのクリニック、研究所として更なる30年を目指し、レーザー医学を通して医学の発展、普及に努め、皆様のお役に立てるよう一層の努力をしてまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。